

発行所 岳風会兵庫県本部  
発行者 向田 岳 隆  
編集 広 報 部

# 岳風兵庫かわらばん

## 夏期講習風景

8月6日、日曜日 11時、外の気温は31度、外でぼんやりしていると熱中症になりかねない温度、この調子で行くと午後はさらに暑くなりそうだ。しかし、今日の木材会館は、出席者が比較的少ないせいか、いつもの講習とは違いゆったりとして空調もよく効いた快適な環境だ。

### 講習会カリキュラム

午前の部 奥伝（風号）申請者研修講座

本部長 向田岳隆先生 挨拶

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. オリエンテーション          | 副本部長・理事長 立脇岳堯先生 |
| 2. 第一講 吟詠の基礎・実技指導     | 副本部長 岩野岳照先生     |
| 3. 第二講 吟詠マニュアルの講義実技指導 | 本部長 向田岳隆先生      |
| 4. 終了証授与              |                 |

午後の部 昇段審査資格者（現在六・七段）平成19年春・秋受審者講習

本部長 向田岳隆先生 挨拶

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. オリエンテーション          | 副本部長・理事長 立脇岳堯先生 |
| 2. 第三講 実技指導（六段親鸞寺一組）  | 副本部長 渡辺岳蔭先生     |
| 3. 第四講 実技指導（七段親鸞寺一組）  | 本部長 向田岳隆先生      |
| 4. 第五講 吟詠マニュアルの講義実技指導 | 本部長 向田岳隆先生      |
| 5. 終了証授与              |                 |



午後は、受講メンバーが入れ替わり、昇段審査資格者（現在六・七段）への講習となる。気温はさらに上がって34度、会場内は午前中に続いて快適な環境の中、第三講・第四講と実技を交えながら熱心な講義が続いた。



午前中は、奥伝（風号）申請者研修講座、本部長の挨拶の後、立脇先生のオリエンテーションに続き、第一講・第二講と、それぞれ持ち時間を有効に使いながら定刻どおり熱心に進められた。受講された皆さんも終始熱心に講習に耳を傾け、普段の教室にはない何かを身に付けられた事と思う。



今回の講習会では従来と違い、講習終了後ただちに終了証が本人に手渡されるようになった。これは、講習会裏方がパソコンの出席者名簿に従い、リアルタイムに修了書への入力が進められたお陰だ。今後もこういった取り組みは積極的に進めて頂きたいと思う。



終了証をリアルタイムに整理する副理事長辛嶋・舛田の両先生

兵庫県吟詠連盟財団公認兵庫県吟剣詩舞道総連盟共催

18年度 幼・少年吟詠コンクール（5月28日）

幼年の部に於いて金賞銀賞に輝いた兄弟。

「初めての金賞」 河合将輝（兄）

5月28日ばくは、このコンクール幼年の部にさんかしたのは、今回で2回目です。最初は、かなりきんちょうしていましたが歌い終わったあとは、きんちょうかんはなくなりました。幼年の部が終わって、いきなり幼年の部のけっか発表がありました。けっかは金賞でした。

歌う前いすにすわったときは、ものすごくきんちょうしてました。心の中ではうまくいくかどうかはわからず、ものすごいふあんでした。自分の番がきて歌い終わってからうしろにたおれそうになりました。

弟のほうは銀賞でした。自分が金賞をとってうれしかったです。ぼくが歌った「ぐうせい」は、ときにはむずかしいところもありましたが、こんどは1位をめざしてがんばろうと思っています。



貴義君の選んだ課題詩



「とどかなかった金賞」 河合貴義（弟）

ぼくは、その前の夜むねがどきどきしました。ベットのなかで「あしたはがんばるぞ!!」とおもっていました。

そしてよくじつ5月28日「ぼく金賞にはいるかもしれへん」といいました。でも自分のばんがきて、またどきどきしました。ぼくがおわり幼年の部がおわり昼だと思っていましたが「ここで幼年の部のしんさけっかが発表されます」と言われいっしゅん「どきっ」としました。そしてお兄ちゃんが言われ、いよいよぼくのばんとおもったとき62番と言われ次だと思いました。でも64番と言われがっかりしました。

ぼくは銀賞でした。おにいちゃんにさいごに「金賞かけさせて!」と言いました。ぼくは金賞をかけて「金賞はおれのや!!」と言ってはしゃぎました。

金賞にはいれなくて、ほんとうにざんねんでした。でも次こそは「金賞めざしてがんばるぞ!!」次は『たばるざか』を「がんばるぞ!!金賞めざしていくぞ」でもぼくは、こころのそこでは、がんばったよくやったと自分じしんでおもっています。そしてお母さんに「おしかったなー」と言われました。

### 少年・青壮年部活動報告

(平成 18 年 5 月～7 月)

- 平成 18 年 5 月 20 日 (土) 兵庫勤労市民センター 18:00～  
第 5 回少年・青壮年部吟詠大会準備実行委員会  
● 来賓出席者取りまとめ  
● 構成吟について打ち合わせ
- 平成 18 年 6 月 10 日 (土) 兵庫勤労市民センター 13:00～  
第 6 回大会準備実行委員会  
● 構成吟・吟題・人員振り分け  
● 大会役委員について  
● プログラム編成
- 平成 18 年 6 月 24 日 (土) 兵庫勤労市民センター 18:00～  
第 7 回大会準備実行委員会  
● 第 1 回プログラム構成  
● 大会役委員役割分担  
● その他打ち合わせ

- 平成 18 年 7 月 13 日 (木)  
● 大会用弁当・懇親会食事の打ち合わせのため  
コーペーフーズ訪問
- 平成 18 年 7 月 16 日 (日)  
兵庫勤労市民センター音楽室 13:00～  
● 少年・青壮年部勉強会  
● 講師：舛田岳平先生・小野岳礼先生を招く  
出席者数：28 名 (少年 3 名)
- 平成 18 年 7 月 22 日 (土) 大黒地蔵神社センター 13:00～  
第 8 回大会準備実行委員会  
● 第 2 回プログラム構成  
● 構成吟の練習

- 平成 18 年 7 月 16 日 (日)  
於 兵庫勤労市民センター音楽室  
● 少年・青壮年部勉強会  
● 講師：舛田岳平先生・小野岳礼先生を招く



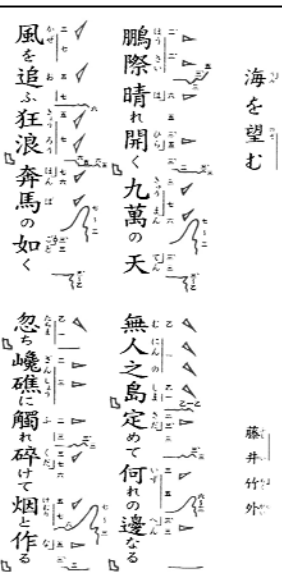
熱心な勉強会の模様

### 原稿募集

- グループの活動やできごと
  - 個人の体験・家族旅行
  - その他 (俳句・川柳・短歌)
- 文字数の制限はありません写真を添えて

### 花山院一口メモ

花山院の本尊は薬師瑠璃光如来像。西国観音霊場の番外札所になっている。本堂には江戸時代に造られた法皇の木像を安置している、花山法皇像は一般公開していない。花山院にはJR三田駅から神姫バス乙原行きで約20分。  
同寺TEL566・0125



丹波・北摂路を訪ねて  
第七ブロック こだま支部 中谷朋風

私達、第7ブロックでは、恒例の吟行会を、平成18年6月11日の日曜日、丹波・北摂路に県民バスを利用して小旅行を行ないました。当日は入梅宣言直後の雨上がりで、野山の緑も鮮やかで、寒くもなく暑くもなく、散策には最適な条件でした。森田龍岳ブロック長、延原岳瑛先生、別役岳七先生を始め総勢32名の参加を得て和気藹々、楽しい雰囲気の中で行ないました。

まず、丹波立杭焼きの里に昨年11月新しくオープンした県立陶芸美術館に参りました。素晴らしい建物で、展示についても立杭焼きなどの素晴らしい名品が見られるものと、大いに期待していましたが、前衛作家のものばかりで、意味もよく判らなくなるとなく欲求不満となりました。仕方がないので、隣の陶の里に行きました。此方では、伝統の立杭焼きの素晴らしい古丹波、新人作家の作品の展示に触れ、ようやく不満が解消されました。

後、三田市に帰り『がんこ三田の里』で昼食を頂きました。此処は三田の旧家大原邸で、宮本武蔵の養子となった宮本伊織の母方の実家と言われている歴史を感じさせる、大きな屋敷で、素晴らしい庭を拝見しながら食事を頂きました。前日の雨で庭の木々の緑も一段と冴えて美しく久し振りに豊かな気分となりました。

午後は、麒麟ビール神戸工場の見学を行いました。生産量、大瓶換算年間40億本とかの大きな工場ですが、今日は休日のためピンの工程は休止しており、残念でした。後、日本で初めてビールを造った川本幸民に思いを馳せつつ、試飲を致しました。見学時間の都合上、昼食後すぐですが、さすが本家の工場ですから、ビールの味も格別でした。

愈々、本日の工程の最後、県立有馬富士公園に行きました。兵庫県が阪神間の広域化、多様化するレクリエーションの需要にこたえるため計画設置した兵庫県下最大規模の広域都市公園です。三田市のシンボル有馬富士を中心とした、豊かな自然環境に恵まれた計画面積のヘクタールの公園で、平成18年4月にメインエントランスゾーン70ヘクタールがオープンし、更に昨年、三田に伝わる曹の民話を題材にした幼児を対象にした遊びの大国がオープンしました。又昨年10月には皇太子殿下の御臨席を得て全国有馬富士行われしました。公園の概要についての説明を聞いた後、緑一杯の公園内を散策致しました。中央の広大な福島大池と有馬富士を前にして、水面に映る逆さ富士を眺めながら、西国33番観音信仰中興の祖花山法皇に思いを馳せつつ、花山法皇作の有名な和歌、有馬富士麓の霧は海に似て 波かを聞けば小野の松風』を吟じました。



有馬富士をバックに

続いて、三田の山間部に押し込められ、海に帰る事を何時も願った九鬼水軍、三田九鬼藩を偲び、藤井竹外作『望海』を太平洋に届けよとばかりの大声で、また梅雨の時期にふさわしい大槻磐濤作『蛭を観る』を吟じました。有馬富士公園は一日掛けてもまだ時間が足りないほどの、広大な緑一杯の自然観察型公園で、まだまだゆくりたいのですが、時間の関係もあり一部に触れただけで帰る事にしました。またこの際、花山院にも参詣し花山法皇が隠棲の地と定められた美しい歌詞の風景にも接したいと思いましたが、参道が観光バスでは無理とのことであきらめて帰る事にしました。

吟を通じて、悠久の歴史と美しい自然に触れ、更にお酒も食事も満喫出来た楽しい一日でした。

## 「未来への布陣、発想転換の年」